

知事を囲んでの意見交換会 ～活動事例発表～



代表理事 山口 ひとみ 氏

所在等 西置賜郡小国町大石沢373
組合員数 5名
代表 代表理事 山口 ひとみ
事業
1 農産物等の生産・加工・販売事業
2 食農教育事業
3 地域活性化事業
4 前各号の事業に付帯する事業

【企業組合旬彩工房】

1 組合を取り巻く現状と課題

代表理事自身が鳥取県の出身で、東京都内で会社員として生活後、結婚を機に小国町東部地区に移住した。「食」への強いこだわりは、会社員時代に食生活が原因で体調を崩してしまったことによる。

東部地区の人たちとの関りが深くなるにつれ、安全でおいしいものを作りたい、自分の仲間の仕事を作りたいと考えるようになった。

2 組合としての取組と実施事業

お菓子作りが上手な女性との出会いもきっかけの一つになり、2010年に県の助成を受けて工房を立ち上げ、2014年4月に法人化した。

パウンドケーキやクッキー、せんべい、雑穀、米などを販売。土からこだわって作った農産物と、安全で贅沢な素材で作ったこだわりおやつ。

主に引き売りと通信販売だが、ショッピングセンターアスモなどの店頭でも若干数販売している。

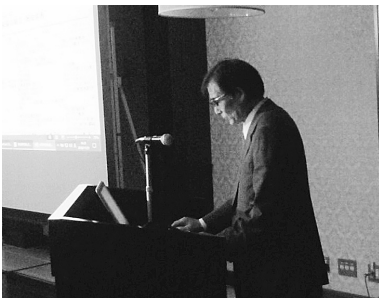
3 組合事業に取り組んでの今後の課題

組合設立時から事業の一つに挙げていた「食農教育事業」について、体づくりの基本である食を町内の方に学んでいただき、地域づくりにも取り組んでいきたい。

東部地区は、従来と違った価値観を認め町外の人を受け入れられる雰囲気があることから、都市部からの農業体験受入にも挑戦していきたい。

4 将来に向けた今後の対応

もちぎび、高きび、といった雑穀は、環境的にも効率の良いエコ食材で、日本の食糧自給率アップにも貢献できる優れたもの。PRに努め、小国町の優れた農産物による安全な食の提供に貢献したい。



代表理事 武田 昭雄 氏

所在等 米沢市小野川町2,501-1
組合員数 23名
代表 代表理事 竹田 昭雄
事業
1 温泉源の管理及び温泉の共同利用に関する事業
2 福利厚生事業
3 教育情報提供事業
4 前各号の事業に付帯する事業

【小野川源泉協同組合】

1 組合を取り巻く現状と課題

東日本大震災と福島原発水素爆発による風評被害がまだまだ影響し、それ以前の景況に戻るには多くの時間を必要とする。また、旅行形態が以前の小グループから二人を中心とする形態に変化したため、主とする組合員が旅行業を営むため定数稼働率の低下が心配である。そのため、ここ7～8年間、組合の予算規模が厳しく、大幅な経費削減による経営で凌いでいる。

2 組合としての取組と実施事業

○温泉熱の高度利用…バイナリー発電、もやし栽培の実験、温泉療養の診療所開設

【バイナリー発電とは】

太陽光や風力とは異なり電力を安定供給でき、年間稼働率は太陽光の4倍にあたる。水よりも沸点の低い代替フロンを温泉熱で加熱させ、その蒸気でタービンを回し発電する。熱源と低沸点媒体のふたつで発電することから、「2元」を意味する「バイナリー発電」と呼ばれている。再生エネルギー活用の一つとして期待されている。

○新規顧客確保…開湯祭の実施、小野川温泉自主映画「Wonogawa」協力、新しい温泉利用開拓

「現在検討中」・老朽化した送湯管(総延長約1.5km)の改修工事
・温泉熱利用によるバナナ栽培(ノウハウがない)

3 組合事業に取り組んでの今後の課題

温泉熱高度利用は、当組合のみで出来る事業でなく、各方面からの金銭的援助と知的財産的なアドバイスの確保が急務である。

4 将来に向けた今後の対応

上記課題を達成するため、組合員の相互理解と組合員の経営状況を向上させること、また、国・県・米沢市等の行政及び産官連携機関への働きかけが重要と感じている。